

会議報告書

会議の名称	さっぽろウェルネス(タベル)健康対策検討部会
日時・場所	令和6年(2024年)12月3日(火) 10時00分～11時30分 ORE 札幌ビル 8階大会議室（札幌市中央区北2条西1丁目）
出席者	別紙1委員名簿のとおり

議事	概要
1 さっぽろウェルネス『タベル』健康対策検討部会の設置について	・事務局より、別紙資料3に基づき、さっぽろウェルネス『タベル』健康対策検討部会の設置について説明
2 意見交換 札幌市民の野菜摂取量増加のために必要なこと (1)食べない理由	・事務局より、別紙資料4に基づき、野菜摂取量の増加に向けた取組について意見を求める。 (委員) ・時間に余裕がない。 ・自分は野菜が不足しているとは思っていない。 ・体に良いことはわかるが、野菜を食べる目的がわからない。 など
(2)野菜不足の自覚、1日野菜350g以上食べることの周知	(委員) ・野菜を食べることの利点について、対象者を絞ったポップを工夫するとよいのではないか。 ・全国と比較して、札幌はコンビニエンスストアでの野菜惣菜の売上が少ない。 (委員) ・学生は野菜を食べている層と食べていない層の格差が広がっている。食べていない層は、1日3食食べるという概念がない者もあり、野菜不足の前に、まずは3食を食べるという働きかけから始めることが必要ではないか。
(3)周知・普及啓発方法	(委員) ・学生はコスパ(コストパフォーマンス)やタイパ(タイムパフォーマンス)を重視する。普及させるためには心に刺さるフレーズや、SNSに投稿したくなる

ような楽しさ、可愛さなどが必要と考える。

(委員)

- ・学生はスポーツと栄養のコラボに興味があるようだ。札幌市取り組んでいるウェルネス何スル?の「タベル」と「ウゴク」のコラボで事業を企画すると良いのではないか。
- ・集客力が多い場所での啓発が効果的である。

(委員)

- ・コンビニエンスストア等で販売しているカット野菜のレシピを紹介する。
- ・動画での啓発が有効だが、若い世代は長い動画は見ないので、30 秒程度の長さが適当と思われる。例えば、市長が野菜を食べ、推定野菜摂取量を測定する動画など、注目を集めるのではないか。
- ・SNS の活用。
- ・推定野菜摂取量測定機をスーパーやコンビニエンスストアの野菜コーナーに設置してはいかがか。

(委員)

- ・学食の自販機で野菜ジュースを販売するなど購入しやすい環境づくりが必要ではないか。
- ・若い世代の関心を引くため、行政と企業が連携した広報を検討すると良いのではないか。

(委員)

- ・魚が漁獲から加工・調理されて食卓に並ぶまでをコスチュームや遊具を使用して疑似体験できる施設がある。楽しみながら学ぶことができ、野菜に関するこのような施設があると良いのではないか。
- ・市民がどこに遊びに行くかアンケート調査等を行い、行動パターンを把握し、人が集まるところで働きかけを行う。
- ・栄養と何か(運動・勉強・美容など)を掛け合わせ、ターゲットを絞って啓発すると、自分ごとと捉えられるのではないか。各区のキャラクターと栄養と組み合わせること良いのではないか。

(委員)

- ・若い世代は長期的なことより、現状を重視する。野菜全体の栄養について幅広く周知するより、メリットを端的に伝えた方が響くのではないか。
- ・親元を離れる高校生以降に野菜摂取量が減ってくる。また、若い世代や働く世代に啓発したいが、学ぶ機会がないことから、新入社員研修等での啓発

	の機会を設けてはどうか。 ・推定野菜摂取量測定機は、自分の食べている野菜の量が可視化されて、ゲーム感覚で興味を持ってもらえる。首都圏でテスト的にコンビニに設置する検証を行ったことがあるが、札幌市でも計測できる機会が増えるとよいのではないかと。 ・野菜の好きな人の7～8割程度は栽培体験の経験があるというデータがある。そのような機会増やしてはどうか。 (委員)
(4)食生活についての情報を得ている媒体	・若い世代の情報を得る手段はスマホからがすべてであるように感じる。 (委員) ・インスタグラム ・子育て世代でも情報源がSNSからの層とテレビ・広報からの層が半々程度の印象がある。
3 今後の予定ほか	・事務局より今後の予定について説明。 ・周知方法等のご意見については、お持ち帰りいただき、12月13日(金)を目途に意見等を受け付ける。 ・次回の部会は2月頃に開催予定。なお、開催方法は別途案内。